

..... 編集後記 .....

◆梅雨に入って随分たったように思います。つくばは曇天の日が多く、雨が降るのか降らないのか中途半端な日が続いておりますが、皆さんの所はどうでしょうか。

◆現在、一つの地下資源をめぐる瀬戸内海を取り巻く自治体が揺れています。その資源とは土木・建築工事に使用する砂のことです。この砂資源の供給場所は沖積層や洪積層の発達の場合によって各自治体で異なるのですが、これらの堆積層の発達の悪い西日本では海砂に長い間この資源を求めてきました。しかし、大量の海砂採取が瀬戸内海の環境を破壊するとの考えがあり、採取禁止が論じられています。この話だけを聞くとなるほどと思われるかもしれませんが。

我が国の社会基盤はコンクリートで構成されています。コンクリート構造物を作るためには大量の砂が必要です。西日本で毎年採取されている海砂の量は我が国における砂の総供給量の約40%、世界における海底鉱物資源の総採取量の80%以上を占めています。瀬戸内海から採取されている海砂の量はこの半分の量になります。コンクリート構造物は、60～70年で再構築が必要となり我々の現在の生態系を維持するためには今後も膨大な砂の供給が不可欠となります。瀬戸内海問題は「環境保

全」か「生活維持」かのいずれを選択するかの問題が提起されたこととなります。この問題に限らず、地下資源開発と環境保全の対立は勧善懲悪主義的一元論では解決しないように思われます。

◆さて、今月号は先月号の地球環境関連の特集の続編、資源関連および自然災害関連の記事で紙面を構成しました。

◆地球環境関連の記事では、昔の健康状態はどうでしたかと色々な専門の地球担当医が地球に問診した結果が紹介されています。地球担当医には外科医がいませんので明確な治療法は提示されていませんが、「温故知新」とか「敵を知れば百戦して危うからず」と言う言葉のとおり地球の環境問題を考える上で重要な情報ですので、ご一読下さい。

◆我々の日常生活には陶磁器がたくさん使われています。中国の有名な景德鎮の磁器原料について、おなじみの須藤氏が紹介しています。日本にも有名な磁器の産地がありますが、原材料となる粘土が枯渇してきていることをご存じでしょうか。

◆兵庫県南部地震直後の人工構造物の破壊の状況が服部氏によって報告されています。不幸にして大地震が発生した時の惨状予測の参考になればと思います。(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(谷田部信郎・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第528号	1998年	8月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
1998年8月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町1-1-1私書箱第21号		
印刷	株式会社 ケイ・トウ・ワン		

© 1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。